

## II. 農業政策の動向

---

近年、輸入農産物の残留農薬問題の発生等を契機とした食の安全・安心に対する関心の高まりをはじめ、食料自給問題や環境問題等、様々な問題が食料・農業・農村を取り巻いている状況です。これらの問題への対応に向け、農業政策上、以下の5つの重要な視点が挙げられます。

- 食の安全・安心に対する関心の高まり
- 健康志向の高まり
- 食料自給率向上の必要性
- 少子・高齢化の進行
- ライフスタイル・価値観の多様化

国が策定した「食料・農業・農村基本計画」を始めとする各計画・構想においても、これらの潮流をふまえた日本の農業のあり方を示しています。そこでは、食料自給率の向上や担い手確保、安定した農業経営等のほか、近年その価値が再認識されている「農の多面的機能」の観点から、環境保全を重視した農業の推進、農とのふれあいの機会増加、食育を通じた農業への理解の促進なども進めることとしており、農業や農地を国民全員の財産としてとらえ、日本の将来のために守り育てていく取組を広げていくこととしています。